

国際翻訳家連盟 (FIT) 第16回世界大会報告

鳥飼 玖美子
(立教大学)

国際翻訳家連盟 (Federation International des Traducteurs = FIT) は、1953年、Pierre-Francois Caille によりパリで創設された。2003年に50周年を迎える。世界50か国の翻訳・通訳関連の学会・協会が加盟しており、会員数は6万人を越す。4年に1回、世界大会が開催されている。第16回世界大会は、“Translation: New Ideas for a New Century” というテーマのもと、2002年8月7日から10日までカナダ・バンクーバー市において開催された。日本からは日本翻訳家協会 (Japan Society of Translators) が唯一の正会員として発足直後から加盟しており、鳥飼は同協会理事として今大会に参加した。以下はその報告および所感である。

[報告]

1. Open Congress

- 45か国より400名が参加。
- 発表の内訳は以下の通りである。
- Translation Studies (33); Literary Translation (29); Interpreting (16); Multi-Media (6); Ethics, Status and Future of the Profession (13); Technology and Translation (9); Localization (4); Terminology (7); Translation Profession (9); Commercial Presentation (5)
- 発表者には、Ingrid Kurz, Yves Gambier, Carol Maier, Peter Bush, Roda Roberts など著名人も多数。通訳のセッションでは会議通訳、法廷通訳、コミュニティ通訳、放送通訳などに関する多様な発表があった。Danica Seleskovitch 「意味の理論」の重要性を再評価する発表、東欧における法廷通訳に関する調査報告、Ingrid Kurz が自らを被験者として実施した放送通訳のストレスについての発表等々。

TORIKAI Kumiko, "A Report on the 16th World Congress of the International Federation of Translators." *Interpretation Studies*, No. 2, December 2002, pages 161-165.
(c) 2002 by the Japan Association for Interpretation Studies

- 基調講演は3名。
 - 1) Robert Bringhurst: “The Future of the Past: Translating Native North American Literature into Colonial Tongues” -- 詩人である Bringhurst 氏が、北米 Haida 族の口承伝説を翻訳した経験に基づき、マイナー言語の現状と未来について語った。
 - 2) Harry Obst: “The Life of a Presidential Interpreter: Riding the Roller Coaster” -- ドイツ語通訳者として、ジョンソンからクリントンまで7名の米大統領の通訳を勤めた経験をユーモアたっぷりに語った。
 - 3) Alan K. Melby: “Technology and the Translator” -- Brigham Young 大学教授で、機械翻訳で知られる Melby が、パワーポイントを駆使して講演。「北京オリンピックでは機械翻訳と人間の通訳者とどちらを用意したらよいだろうか」との質問が中国代表から出され、うまく両方を使い分けることが大切との答えであった。
- 会議最終日は、恒例により翻訳賞授賞式が執り行われた。

2. Statutory Congress

- 大会の前に、加盟団体代表とFIT執行部との総会が数日間開催されることになっており、今回は8月1日から5日までの4日間、大会と同じホテル (Fairmont Waterfront Hotel) にて開催された。議題は、会長報告、事務局長報告、会計報告、予算承認、規約変更、新規会員承認、退会承認等、通常の学会における総会と同様の内容である。
- 正会員となる団体は、2ドルx 会員数分を会費として納める。正会員中、最も多く会費を納めているのは American Translators Association (ATA)である。一定の会費を納入して準会員になれば、総会に出席し発言することは認められるが、投票権を有するのは正会員として加盟している団体だけである。規約改正により次回からは、非会員のオブザーバー参加も認めることになった。
- 日本から準会員として “Japan Association of Translators” という名称で参加していたバベル翻訳学院は、会費未納により除名となった。
- 最も重要な議題は、新理事選出である。理事会は17名で構成されており、任期3年で更新は2回までとなっている。任期満了となり退任した理事の空席分を補充することになるが、各国の団体から推薦された候補者が立候補し、全正会員による選挙で新理事を選出する。立候補の演説は英語もしくはフランス語で行なう。国によっては複数の団体が加盟しており、その場合は複数の投票権を有する。今回は、鳥飼の他、中国から2名、韓国から1名の理事が選出されたが、FIT理事会にアジアから4名もの理事が入ったのは初めてとのことである。
- 新理事が決定すると直ちに第一回理事会が召集され、会長、副会長、事務局長

などの新執行部を選出した。これまで会長であった Adolfo Gentile 氏 (Australia) が任期満了となり、新たにカナダの Betty Cohen 氏が会長に選出された。

- FIT が編集し、John Benjamins 社から出版している学会誌 *Babel* についての報告があった。ユネスコからの補助金が近年、途絶えていることが問題となる。
- 総会最終日には、全加盟団体からの報告があった。特に議論となったのは、以下の3点であった。

1) 学術誌編集長である Mona Baker 氏が、Gideon Toury と Miriam Schlesinger 両氏をイスラエル人という理由で編集委員からおろしたことについて、イスラエル翻訳家協会が抗議。FIT は政治問題には関与しないが、国籍・人種による差別には反対する、という趣旨の決議文を採択することに決定。

FIT Statement

“FIT has been asked to take a position on the controversy regarding the boycott of Israeli academics. The XVIth Statutory Congress of the International Federation of Translators underlines the fact that FIT is a strictly non-political organization of professional translators. FIT supports universal freedom of speech and expression, and takes no official position on this or any specific political issue. FIT strongly deplores any discrimination on the basis of race, religion, nationality, gender or language. Founded in Paris in 1953 by Pierre-Francois Caille, FIT is an international federation of translators’ associations with member associations in nearly 50 countries throughout the world. Through its member associations, FIT represents the moral and material interests of over 60,000 translators on all five continents.”

2) 法廷通訳で、故意に誤訳したと判断される場合は告訴の対象とする、というチェコの法改正を巡り、FIT として決議文を起草しチェコ政府に提出することを決定。

“The Sixteenth World Congress of the International Federation of Translators strongly deplores the Amendment of the Criminal Code of the Czech Republic, in Act No.134/202, taking effect on July 1 of this year, which creates a new type of felony. Under this provision, an interpreter is liable to criminal prosecution if she or he “intentionally delivers incorrect, grossly misrepresented or incomplete interpreting or written translation.” This clause

places interpreters and translators in danger of punishment that can include imprisonment, and may well subject them to prosecution with extremely serious consequences.

Given the nature of the act of interpreting or translating, and the difficulty of establishing the intention with which acts are performed, the Congress believes that this statute places an unfair and injurious burden on interpreters and translators. It makes the correct practice of their profession, already a challenging one, even more difficult. The Congress strongly urges the Government of the Czech Republic to repeal this unfortunate and harmful provision of law, and to use previously existing statutes to address the issue of harm done by interpreters or translators, should any such instances occur.”

3) 猥褻な文章を翻訳したという理由で翻訳者が告訴されたトルコの状況について報告があり、詳細な実情を調査の上、抗議文を作成し、トルコ政府に送ることを決定。

3. 今後の予定

- 2003年9月 創立50周年記念大会 パリ
- 2005年8月2日～10日 第17回世界大会 フィンランド・タンペラ (Tampere, Finland)

[所感]

翻訳と通訳に関する諸分野を幅広く扱っており、世界の状況、最新の流れを把握するのに格好の会議である。

世界的に見ると、翻訳では従来の文学翻訳に加え、**localization** や機械翻訳などIT 関連が重要性を増しており、コーパス言語学を応用しての **terminology** 研究、認知心理学や語用論等の知見を取り入れた発表も多くなっている。通訳領域では、法廷通訳、コミュニテイ通訳に関する発表が活発であったし、放送通訳、映像翻訳などについての発表もあった。通訳教育については、オンラインでの教育実践が取上げられていたが、英語教育の一貫としてとらえるような発表はなかった。翻訳者教育に関連しては、“**Self-translation**” の有効性に関し問題提起があった。また、法廷通訳者が文化の解説を裁判中にどこまですべきなのか、質疑応答で議論になり、法廷通訳の規範が各国で異なり、世界的にも模索中であることが露呈された。

その他、国際政治が通訳・翻訳にまで及ぼす影響と、翻訳者・通訳者の人権問題が深刻であることを認識した。

今回の大会では、アジアでは中国の活躍が目立った。日本からの発表はなく、存

在感は薄いと言わざるをえない。日本の通訳研究事情を海外に発信する為にも積極的に発表することは肝要であるが、研究発表の資格を得る為には、学会として正会員になる必要がある。日本の加盟団体である日本翻訳家協会では、西山千理事長時代、2000年の NPO（非営利活動法人）化を期に規約改正をし、翻訳書のない通訳家も会員として受け入れるようになってきているが、通訳関係者はまだ少数であることは否めない。他国の状況を見ると、翻訳、通訳と別の組織になっている場合は個別に加盟しており、ひとつの国から1団体のみが加盟している場合は、通訳と翻訳の双方が入っている。今後の課題として、日本通訳学会が FIT に参加する方途を検討することを提案したい。日本翻訳家協会との協力関係を視野に入れることもひとつの可能性として考えられないであろうか。

世界的な連携ネットワークに参加することは本学会にとって有益のみならず、FIT にとっても、日本にとっても大きな意義があると考えられる。

筆者紹介：鳥飼 玖美子 (TORIKAI Kumiko) 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科教授。日本通訳学会副会長。日本ユネスコ国内委員会、国語審議会（第 22 期）、観光政策審議会（第 19 期）、文部大臣諮問英語指導法等改善推進懇談会(2000 年度)などの各委員を歴任。

[編集部註] FIT第16回世界大会の詳細は以下のウェブサイトで参照することができます。<http://www.fit2002.org/ehome.htm>（2002年8月20日現在）